第２次伊那市総合計画後期計画序論（原案）に対する意見整理表（協議後）

資料No.1-1

【序論】

令和5年7月27日　第3回審議会

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局（担当部局）の考え方
1			「序論」→「序章」としてはどうか。 論ずるのではなく、計画の基本となる内容の叙述のため。	Ⅰ　序論	Ⅰ　はじめに	県計画及び他市町村計画で用いられている語句である「はじめに」とします。
2	P1	第１章　計画策定にあたって 第１節　計画策定の趣旨	地方分権の進展により、自治体の自由度と責任が拡大され →　「自治体」→「地方自治体」としてはどうか。	また、地方分権の進展により、自治体の自由度と責任が拡大されていく中で、地方創生の視点から本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくためには、	また、地方分権の進展により、地方自治体の自由度と責任が拡大されていく中で、地方創生の視点から本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくためには、	意見を踏まえ、原案を修正します。
3	P1	第１章　計画策定にあたって 第１節　計画策定の趣旨	本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくためには、市民や地域、各種団体など多様な主体の参加 →　市民や地域、の次に「事業者」を加えたい。			「各種団体など」に事業者も含まれていると考えますので、そのままの記載とさせていただきたく存じます。
4	P2	第１章　計画策定にあたって 第２節　計画の構成及び期間	なぜ総合計画と土地利用計画を連動させたのか説明がほしい。			・本市の土地利用計画は、国土利用計画（全国計画）に基づいて策定された長野県国土利用計画を基本とし、伊那市総合計画の基本構想に即して本市の区域の土地利用に関し必要な事項を定めています。 ・土地利用計画の性格が、土地利用の方向性や理念などにあることから、近年では独立した土地利用計画ではなく、総合計画に包含する形で策定する市町村が多くなっています。本市においても、第２次総合計画から、総合計画との整合を図るため、基本構想における「土地利用構想」の内容を充実させる形で一体的に策定しています。
5	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	「第１節　自然と地理」→「第１節　位置と自然」としてはどうか。 地理という用語を使うには、あまりにも曖昧。 地理は自然～地域など様々な指標により地域性をあきらかにする学問だから。 故に、いきなり交通だけが扱われるのはいかにも不自然でアンバランス。	第１節　自然と地理	第１節　位置と自然	ご意見をもとに節名を修正します。

第２次伊那市総合計画後期計画序論（原案）に対する意見整理表（協議後）

資料No.1-1

【序論】

令和5年7月27日　第3回審議会

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局（担当部局）の考え方
6	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	標高約600ｍの伊那盆地が開け →　～900mを補足し、「600m～900m」とされたい。	本市は、長野県の南部に位置し、南東側は南アルプスを境に山梨県と静岡県に接し、西側は中央アルプスを境に木曽地域に接しています。市域面積は667.93㎢で、松本市、長野市に次いで県下3番目に広く、東部に南アルプス国立公園、三峰川水系県立公園を、西部に中央アルプス国定公園を有し、南アルプスと中央アルプスの2つのアルプスがそびえています。この2つのアルプスに抱かれた中央部には、~~標高約600ｍの~~伊那盆地が開け、天竜川が三峰川をはじめとする支流を合わせて南下し、天竜川に交わる形で扇状地や段丘崖が形成されており、広大なパノラマが展開しています。 また、本地域は、内陸性気候で~~年間の平均気温が約12℃、~~日照時間も長く、夏期は冷涼、冬期は降雪の少ない住みよい環境にあり、地震や台風などの大きな災害が少なく自然環境に恵まれています。 ~~交通面では、市の中央部をＪＲ飯田線が走り、中央本線・東海道本線に連絡しています。また、国道153号をはじめ、国道152号、同361号及び県道が縦横に走り、東西・南北が結ばれており、さらに、市内の移動性の向上を図るため、内環状線、外環状線の整備が進められています。市の西部をE19中央自動車道が南北に走り、首都圏及び中京圏から、ほぼ等距離に位置しています。~~	本市は、長野県の南部に位置し、首都圏及び中京圏からは、ほぼ等距離に位置しています。南東側は南アルプスを境に山梨県と静岡県に接し、西側は中央アルプスを境に木曽地域に接しています。市域面積は667.93㎢で、松本市、長野市に次いで県下3番目に広く、東部に南アルプス国立公園、三峰川水系県立公園を、西部に中央アルプス国定公園を有し、南アルプスと中央アルプスの2つのアルプスがそびえています。この2つのアルプスに抱かれた中央部には伊那盆地が開け、天竜川が三峰川をはじめとする支流を合わせて南下し、天竜川に交わる形で扇状地等が形成されており、広大なパノラマ景観が展開しています。 また、本地域は、内陸性気候で日照時間も長く、夏期は冷涼、冬期は降雪の少ない住みよい環境にあり、地震や台風などの大きな災害が比較的少なく自然環境に恵まれています。	ご意見をもとに記載内容を修正します。
7	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	天竜川が三峰川をはじめとする支流を合わせて南下し、天竜川に交わる形で扇状地や段丘崖が形成されており、 →交わるを削除し、以下のようにされたい。 天竜川の山麓には扇状地、河川沿いには河岸段丘が形成されており、広大なパノラマ景観が展開しています。			
8	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	国道153号をはじめ、国道152号、同361号及び県道が縦横に走り →　「県道、バイパスが走り」としてはどうか。			
9	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	地震や台風などの大きな災害が少なく自然環境に恵まれています。 →　「大きな災害が比較的少なく」としてはどうか。			
10	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	年間の平均気温が約12℃ →　約12℃（）とし、（）内に観測年を記載されたい。			
11	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	断層についても触れられたい。			
12	P4	第２章　本市の姿 第１節　自然と地理	首都圏及び中京圏から、ほぼ等距離に位置しています。 →　前の３行目に移し、位置として記述する。			
13	P5	第２章　本市の姿 第２節　沿革と現況	「旧宿場で商工業の盛んな伊那市」などの表現は妥当か。以降の文章の中に人口や産業などの要点も加えたい。	新「伊那市」発足以後、本市では、「旧宿場で商工業の盛んな伊那市」、「旧城下で史跡とタカトオコヒガンザクラの高遠町」、「南アルプスの自然と豊かな民話伝承の長谷村」といった地域特性の融合により、魅力あるまちづくりを継承・展開しています。	新「伊那市」発足以後、本市では、「農林業・商工業の盛んな伊那市」、「旧城下で史跡とタカトオコヒガンザクラの高遠町」、「南アルプスの自然と豊かな民話伝承の長谷村」といった地域特性の融合により、魅力あるまちづくりを継承・展開しています。	意見を踏まえ、原案を修正します。
14	P7	第２章　本市の姿 第３節　産業と文化	本市の産業は、農業・林業・工業・商業・建設業などがバランスよく発展してきました。 →なにを根拠にバランスがいいと言えるのか。	本市の産業は、農業・林業・工業・商業・建設業などがバランスよく発展してきました。 農業は、産出額が約63.1億円（2020年（令和２年）：農林水産省市町村別農業産出額（推計））であり、恵まれた耕地を利用した米の栽培を中心に、野菜、花き、果樹の栽培や畜産が盛んに行われ、農畜産物の一大供給産地となっています。	本市の農業は、産出額が約63.1億円（2020年（令和２年）：農林水産省市町村別農業産出額（推計））であり、恵まれた耕地を利用した米の栽培を中心に、野菜、花き、果樹の栽培や畜産が盛んに行われ、農畜産物の一大供給産地となっています。	意見を踏まえ、原案を修正します。

第２次伊那市総合計画後期計画序論（原案）に対する意見整理表（協議後）

資料No.1-1

【序論】

令和5年7月27日　第3回審議会

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局（担当部局）の考え方
15	P7	第２章　本市の姿 第３節　産業と文化	統計の表示は63.1億円（2020、農林水産省統計）くらいで充分ではないか。 また、計画の中の統計の出所の表示の統一が大切。			根拠を示すために統計の名称までを表示したいと考えております。 計画全編において統計の出所の表示は統一します。
16	P7	第２章　本市の姿 第３節　産業と文化	農業産出額、製造品出荷額、年間商品販売額の実績値が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた数値でよいのか（コロナ禍の期間内の数値でよいのか）。			各指標の実績値につきましては、最新（原則、令和４年度）の数値を用いることとし、目標値の見込みにおいて、コロナ禍以前の状況をふまえた目標値とするか、コロナ禍の影響を受けた後の状況を踏まえた目標値とするかは、各施策の状況や担当部局の判断によるものとします。 序論原案内の数値につきましては、コロナ禍前と比較してコロナウイルス感染拡大の影響が見られないため、最新の数値を用いることとします。
17	P7	第２章　本市の姿 第３節　産業と文化	文化財は指定文化財の件数等を示し、文化財は多岐にわたり豊富なことを記述したい。	文化面では、本市の段丘崖上にある縄文時代の遺跡をはじめ、数多くの文化財が埋蔵されていて、古代から恵み豊かで、住みよい地域であったことが推測されます。 また、国指定史跡の高遠城跡をはじめ、有形指定文化財である顔面付釣手形土器などの考古資料や熱田神社などの歴史的建造物、県指定無形民俗文化財である「山寺のやきもち踊りの習俗」など地域に伝わる伝統文化に加え、市指定有形文化財である建福寺石仏群をはじめとする高遠石工などの石造物も市民により大切に引き継がれています。	文化面では、縄文時代の遺跡も多く出土しており、古代から恵み豊かで住みよい地域であったことが推測されます。 市内の文化財は多様で多岐にわたり、国県市の指定（登録・選択を含む。）を受けているものは146件（2023年（令和５年）現在）に及びます。国指定史跡の高遠城跡をはじめ、有形指定文化財である顔面付釣手形土器などの考古資料や熱田神社などの歴史的建造物、県指定無形民俗文化財である「山寺のやきもち踊りの習俗」など地域に伝わる伝統文化に加え、市指定有形文化財である建福寺石仏群をはじめとする高遠石工などの石造物も地域の宝として今日まで市民により大切に引き継がれています。	意見を踏まえ、原案を修正します。
18	P9	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流	第１節　本市を取り巻く時代の潮流 →　「第１節　本市を取り巻く時代の潮流と課題」としてはどうか。			昨今の本市を取り巻く情勢ににについて記載をしており、課題についての記載をしている項目もございますが、課題の記載のない項目もあるため、「第１節　本市を取り巻く時代の潮流」のままとさせていただきます。
19	P9	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流	１　持続可能な社会への変革 →　「１　持続可能な社会への取組み」としてはどうか。	１　持続可能な社会への変革	１　持続可能な社会への取組	意見を踏まえ、原案を修正します。
20	P10	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流 ４　健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現	生活習慣病・メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）は、最大の阻害要因となっています。 ⇒ここまで言い切ってよいのか。	健康寿命の延伸を図るうえで、食生活や運動習慣等を原因とする生活習慣病・メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）は、最大の阻害要因となっています。	健康寿命の延伸を図るうえで、食生活や運動習慣等を原因とする生活習慣病・メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）は、大きな阻害要因となっています。	意見を踏まえ、原案を修正します。
21	P10	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流 ４　健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現	高血圧や糖尿病をはじめとする生活習慣病は、…認知症や寝たきりなどの要介護状態にもつながる要因となっており、 ⇒ここはつながるのか。因果関係はあるのか。			医学的に因果関係が認められることですので、そのままの記載とさせていただきたく存じます。

第２次伊那市総合計画後期計画序論（原案）に対する意見整理表（協議後）

資料No.1-1

【序論】

令和5年7月27日　第3回審議会

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局（担当部局）の考え方
22	P11	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流 ６　地方創生の推進による地方分散型社会への転換	そうしたなか、地方自治体同士の競争に選ばれるためには、 ⇒表現が少し強い気がする。「自治体の特徴ある魅力をより発揮するためには、」としてはどうか。	2010年代後半から全国的に地方創生への取組が進展しており、地方自治体では、地域の特色や資源を生かした住民に身近な施策を幅広く推進し、安定した雇用の創出や新しいひとの流れを生み出す移住・定住の促進、結婚・出産・子育ての支援等に取り組んでいます。そうしたなか、地方自治体同士の競争に選ばれるためには、特色ある施策と質の高い住民サービスを提供することが求められます。	2010年代後半から全国的に地方創生への取組が進展しており、地方自治体では、地域の特色や資源を生かした住民に身近な施策を幅広く推進し、安定した雇用の創出や新しいひとの流れを生み出す移住・定住の促進、結婚・出産・子育ての支援等に取り組んでいます。そうしたなか、地方自治体の特徴ある魅力をより発揮するためには、特色ある施策と質の高い住民サービスを提供することが求められます。	意見を踏まえ、原案を修正します。
23	P11	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流 ７　ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の進展	７　ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の進展 →　過疎化、格差の拡大、空き家の増加等にも触れたい。「デジタル」について十分な理解が大切だが、ネーミングが先行している状況ではないか。	人口減少・少子高齢化の進行により地方においては、過疎化や地域産業の衰退が大きな課題となっています。	人口減少・少子高齢化の進行により地方においては、過疎化や地域産業の衰退、空き家の増加が大きな課題となっています。	意見を踏まえ、原案を修正します。
24	P12	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流 ８　価値観やニーズの多様化	直近でLGBT法の施行もあったが、LGBTをどう位置付けるのか。	社会の成熟化に伴い、個人の価値観やライフスタイルが変化し、人々のニーズも多様化する中、より柔軟な行政サービスの提供が求められています。また、ジェンダー平等については、国・地方の施策が進められている中、性的役割分担の解消への取組と同様に、性についての多様な生き方についても、認め合い尊重する動きが広がり始めています。 しかしながら、社会の理解が深まっていない状況もあるため、多様性を認め、誰もが自分らしく生きられる社会を実現する必要があります。	社会の成熟化に伴い、個人の価値観やライフスタイルが変化し、人々のニーズも多様化する中、より柔軟な行政サービスの提供が求められています。また、ジェンダー平等については、国・地方の施策が進められている中、性的役割分担の解消への取組と同様に、LGBTなど性についての多様な生き方についても、認め合い尊重する動きが広がり始めています。 しかしながら、ジェンダー平等や性的マイノリティへの社会の理解が深まっていない状況もあるため、多様性を認め、誰もが自分らしく生きられる社会を実現する必要があります。	意見を踏まえ、原案を修正します。
25	P12	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流 ９　ロシアのウクライナ侵攻による影響	９　ロシアのウクライナ侵攻による影響 →　「９　流動化する国際情勢」などとし、中国の台頭などにも触れたい。	９　ロシアのウクライナ侵攻による影響 2022年（令和４年）２月にロシアはウクライナへの侵攻を開始しました。このロシアのウクライナ侵攻は、ウクライナにおける深刻な経済縮小とロシア経済の混乱を引き起こし、食料やエネルギー等の高騰や貿易、金融を通した影響が世界経済へ波及しています。 我が国においても、エネルギー価格高騰、物価高騰が発生し、人々の生活に大きな影響をもたらしています。 こうした事態に対し、あらためて平和を願うとともに、世界情勢の影響を受けにくいまちづくりに向けて、食料自給率の向上やエネルギーの地産地消に取り組んでいく必要があります。	９　流動化する国際情勢 2022年（令和４年）２月にロシアはウクライナへの侵攻を開始しました。このロシアのウクライナ侵攻により、ウクライナにおける深刻な経済縮小とロシア経済の混乱が引き起こされ、食料やエネルギー等の高騰や貿易、金融を通した影響が世界経済へ波及し、我が国においても、エネルギー価格高騰、物価高騰が発生し、人々の生活に大きな影響をもたらしています。 加えて、新興国・途上国の急速な経済成長に伴い、国際情勢は一段と流動化しています。 こうした状況において、世界情勢の影響を受けても耐えうるまちづくりに向けて、食料自給率の向上やエネルギーの地産地消に取り組んでいく必要があります。	意見を踏まえ、原案を修正します。

第２次伊那市総合計画後期計画序論（原案）に対する意見整理表（協議後）

資料No.1-1

【序論】

令和5年7月27日　第3回審議会

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局（担当部局）の考え方
26	P13	第３章　計画策定の背景 第１節　本市を取り巻く時代の潮流 11　広域交通の充実による行動圏の拡大と地域公共交通の維持	「流域治水」という用語が唐突に出てくるので、流域治水について、説明を入れた流れにしてはどうか。	近年、豪雨災害の危険を及ぼす大雨の発生頻度が大幅に増加しており、それに伴う土砂災害の発生回数も増加傾向にあります。 また、今後30年以内に70%から80%の確率で発生するとされている南海トラフ地震については、関東から九州・沖縄地方までの広い範囲に及ぶ甚大な被害が想定されるなど、自然災害の頻発化・激甚化の傾向が続くことが懸念されます。 災害から命を守るためには、日頃からの備えが重要であり、自らリスクを認識し行動する「自助」、周りの人たちと助け合う「共助」、行政などによる「公助」のバランスのとれた取組により、被害をできる限り最小限にする「減災」へつなげることが重要となっています。 また、災害の激甚化や広域化が懸念される中、単独市町村における取組だけではなく、「流域治水」等、市町村を超えて連携した取組が必要です。	近年、豪雨災害の危険を及ぼす大雨の発生頻度が大幅に増加しており、それに伴う土砂災害の発生回数も増加傾向にあります。大雨による災害については、激甚化や広域化が懸念されており、単独市町村における取組だけではなく、水災害リスクに対して流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う「流域治水」をはじめ、市町村を超えて連携した取組が必要です。 また、今後30年以内に70%から80%の確率で発生するとされている南海トラフ地震については、関東から九州・沖縄地方までの広い範囲に及ぶ甚大な被害が想定されるなど、自然災害の頻発化・激甚化の傾向が続くことが懸念されます。 災害から命を守るためには、日頃からの備えが重要であり、自らリスクを認識し行動する「自助」、周りの人たちと助け合う「共助」、行政などによる「公助」のバランスのとれた取組により、被害をできる限り最小限にする「減災」へつなげることが重要となっています。	意見を踏まえ、原案を修正します。
27	P14	第３章　計画策定の背景 第２節　市民意識等から見える課題の整理 １　市民アンケート	市民アンケート →　まとめは参考になるが、それぞれの設問の中でどのような点が課題として指摘されたか、もう少し具体的な記述をすると参考になるのでは。			原案に掲載しているまとめよりも内容の充実しているアンケート報告書（公表版）をお示しします。 計画内は分量が限られるため、まとめの掲載とさせていただきたく存じます。
28		全体	行政が策定する多岐にわたる諸計画を目にするが、策定過程はもとより既存の諸計画との整合・見直しをどうするか、かつ策定後の計画の実効性をどう高め、市民が共有するかといった点の工夫・取組みが求められる。			既存の諸計画との整合・見直しにつきましては、他計画を策定する際には、市の最上位計画である総合計画との整合を図ることとなっております。また、総合計画策定の際にも、他計画との整合について考慮しております。 策定後の計画の実効性につきましては、まちづくり指標等による計画の進捗管理を行うとともに、次期計画の策定時等に市民の皆様からのご意見・評価をしっかりとお聞きすることが重要であると考えます。
29		全体	計画策定に際し各委員の所属分野の前期に於ける計画の総括、それを踏まえた後期５カ年の課題を提出いただき、それを踏まえた内容を計画の中に反映したらどうか。			前期計画の総括や後期計画期間における課題を踏まえて計画原案をご審議いただければと存じます。
30		全体	先ごろ策定された県の総合計画とのすりあわせが大切			県計画を確認し、県計画と大きな乖離のないようにします。
31		全体	人口増を目指していくのか、人口減を前提とした施策を進めていくのか。主要指標の将来人口推計のグラフでは、人口の減少が見込まれているが、この総合計画の方向性としてはどうなのか。			国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後、大幅な人口減少が見込まれています。こうした状況を見据えつつ、総合計画では、地域の活力を維持し、人口の減少傾向を緩やかなものとするための施策を位置付けていきます。